

シリーズ

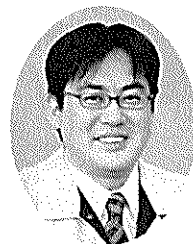
会員企業を  
たずねて



株式会社

ジュンコーポレーション

(安中市松井田町)



代表取締役社長

小坂橋義和氏

技術力で樹脂製品の  
新しい分野を切り開く

ガスインジェクションの高い技術力で業界を躍進中のプラスチック製品の射出成形メーカー「ジュンコーポレーション」。

「他社にないものを打ち出し、開発メーカーとしてガスインジェクションの可能性を広げたい」と小坂橋社長は話す。

同社がガスインジェクションをいち早く導入したのは10年前。「設備にかかる多額な資金や使いこなす技術不足のため、当時、中小企業ではほとんど導入しているところはありませんでした」。まさに思い切った決断であった。

ガスインジェクションとはプラスチック射出成形時に高圧窒素ガスを注入して製品内部から圧力を

ます」と小坂橋社長は胸を張る。

社員力で  
会社レベルをアップ

同社の前身は現社長の父親、純治氏が1970年に創業した「旬小坂橋プラスチック」。当初は中国向けの自転車のランプ部品や自動車部品、住宅設備製品を製作し、徐々に事業を拡大していった。1989年には現在の場所に新工場を設立。その3年後には社長の名前を一字取り、「旬ジュンコーポレーション」と社名変更し、新たなスタートをきった。

小坂橋氏が社長に就任したのは3年前。「まず手掛けたのは、生産管理システムの確立と社員の意識改革です。トップダウンより、ボトムアップ&プルアップで会社全体をレベルアップしなければいけないと感じたからです」。社内を5つの課に分け、それまで明確でなかった業務の細分化を計った。

また、社員の意識改革に全力を注いだという。「そのためにどうやったらわかりやすく伝わるのか、まず私から伝え方を変えました。業務内容をなるべく数字で表すようにし、目標を持ってもらえようにしました。トップメーカーと呼

ばれるどの会社も、飛躍は社員の力によるものだと思うのです」と社員力の大切さを話す。その結果、1年後には不良品の削減と大幅な利益をあげることに成功。

小坂橋社長のポリシーは「共存共栄と社員の幸せ」という。「我が社では1日の業務が終わって帰宅する時、『お疲れさま』とは言いません。『さきげんよう』と声をかけます。恥ずかしいような気もしますが、この方が明日が楽しくなる気がしませんか。とにかく、社員全員が楽しいと思える会社を作っていきたくんですよ」、気さくな語り口でそう話した。

(取材・文：フリーライター 阿部奈穂子)

